



高砂香料工業株式会社

2013年3月期 決算説明会

2013年5月20日

平塚工場における火災事故について

(平成25年5月20日時点)

1.火災事故の概要

- 発生場所：平塚工場 フレーバー製造棟
- 被害状況：人的被害 なし
- 物的被害：3階建ての建物・延べ6,300平方メートルが全焼。

2.当該工場の状況

製品の供給については、当社他工場、当社グループ会社及びその他委託先へ製造移管を進めております。できる限り早く被災前の生産能力を回復できるよう努めてまいります。

3.原因と再発防止対策

現在、関係ご当局の指導を仰ぎつつ、事故原因の一層の究明に努めております。また、事故再発防止委員会を設置し、再発防止の徹底を全力で実施してまいります。

今後、事故調査の詳細につきましても報告させていただく予定です。

本日の内容

1. 2013年3月期の決算概要
2. 2014年3月期の見通し
3. 今後のフレーバー生産体制について
4. 事業施策の進捗報告

1. 2013年3月期 決算概要

連結業績（前期比）

単位:百万円	2012/3	2013/3	対前期比		
			金額	%	
売上高	113,676	118,973	5,297	104.7%	【売上高】 ・アジア地域での高い伸長率が増収に大きく寄与 ・国内飲料向けフレーバーや、メントールが伸長、また連結子会社の追加などにより増収 ・為替のマイナス影響は約10億円
売上総利益	33,386	36,295	2,909	108.7%	【売上総利益/営業利益】 ・人員増やグローバル事業展開の費用増加の一方で、アジア地域の収益率が大きく向上
売上総利益率	(29.3%)	(30.5%)	(1.2%)	-	【その他】 ・関係会社株式売却益5億円 ・設備減損損失7億円(スペイン子会社)
販売管理費	29,415	30,009	594	102.0%	
営業利益	3,971	6,285	2,314	158.3%	
経常利益	4,297	7,475	3,178	174.0%	
(特別利益)	5	643	638	-	
(特別損失)	123	784	661	-	
当期純利益	1,774	4,673	2,898	263.4%	

為替レート			
前期	USD: 79.8円	今期	USD: 79.8円
	EUR:111.1円		EUR:102.6円

連結業績（予想比）

単位:百万円	2013/3 前回予想	2013/3 実績	対予想比	
	2012/5/14		金額	%
売上高	114,000	118,973	4,973	104%
営業利益	5,200	6,285	1,085	121%
経常利益	5,200	7,475	2,275	144%
当期純利益	3,100	4,673	1,573	151%

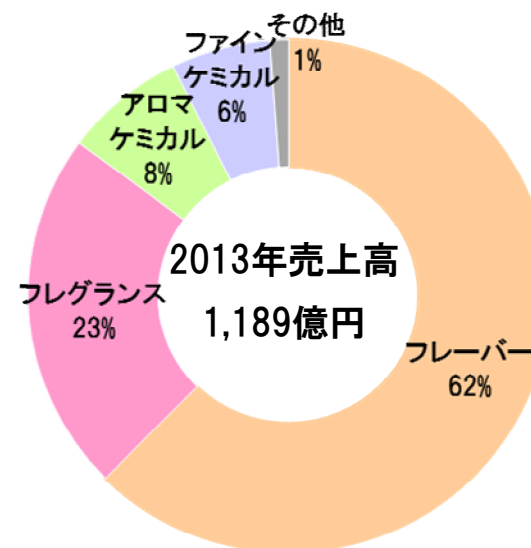
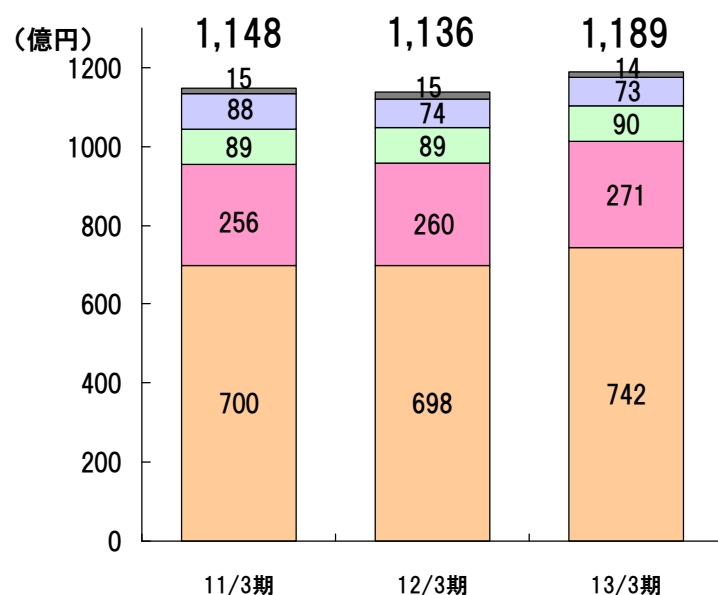
【売上高】

アジア地域が堅調に推移し、またメントールの増収、連結子会社の追加等で予想を上回る

【利益面】

増収効果による利益増と円安による為替差益がプラス要因

事業別売上高



【フレーバー】:前期比 106.3%(為替要因 ▲3億円)

- ・国内:炭酸飲料やノンアルコール飲料向け香料好調。その他機能性の飲料なども順調。
- ・海外:東南アジア地域の飲料向け、欧州のデイリー、タバコ向けなど、海外は全般的に順調。

【フレグランス】:前期比104.1%(為替要因 ▲5億円)

- ・国内:調合香料は柔軟剤向けや韓国市場への販売が好調。一部転売品の減少によりTTLでは減収。
- ・欧州のファインフレグランス・パーソナルケア品向け売上は堅調。

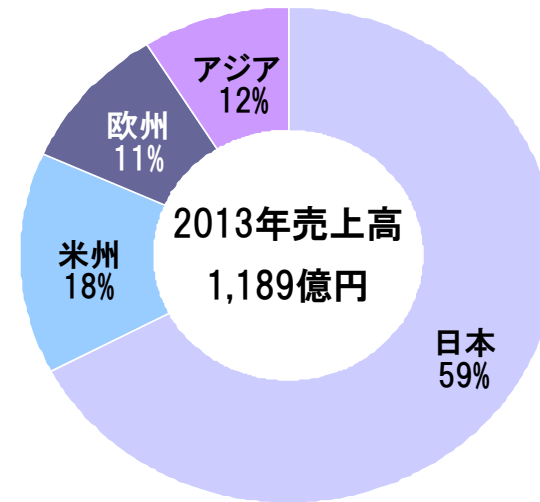
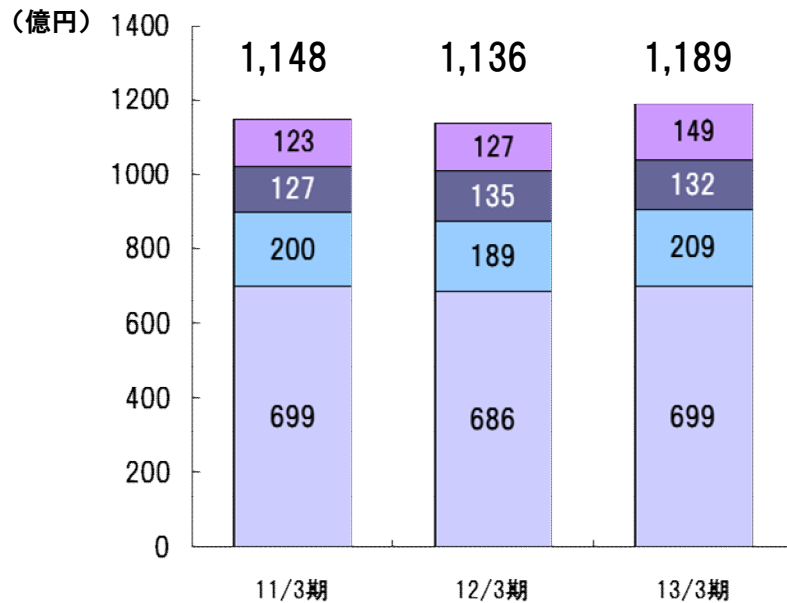
【アロマケミカル】:前期比 100.5%

- ・メントール:天然品の高値推移等で販売好調。
- ・国内その他アロマケミカル品:引き続き厳しい価格競争の中で減収。
- ・欧州拠点では中国やインド製品との価格競争、欧州の景気低迷による市場鈍化の影響で減収。

【ファインケミカル】:前期比 98.8%

- ・国内外向けの医薬品のジェネリック化に伴い医薬中間体は減収。
- ・機能性材料は欧州不況やタイ洪水被害の影響で低調。一方で、触媒販売は増収。

地域別売上高



【日本】:前期比 101.9%

- ・飲料向けフレーバーの増加。
- ・株式追加取得で新たに連結対象となった関係会社売上がプラス要因。
- ・医薬中間体の減収。

【米州】:前期比 110.8%

- ・一部受託ビジネスが増収に寄与。
- ・ブラジル新拠点は2012年稼働。レアル高の影響(為替要因▲2億円)があるものの増収。

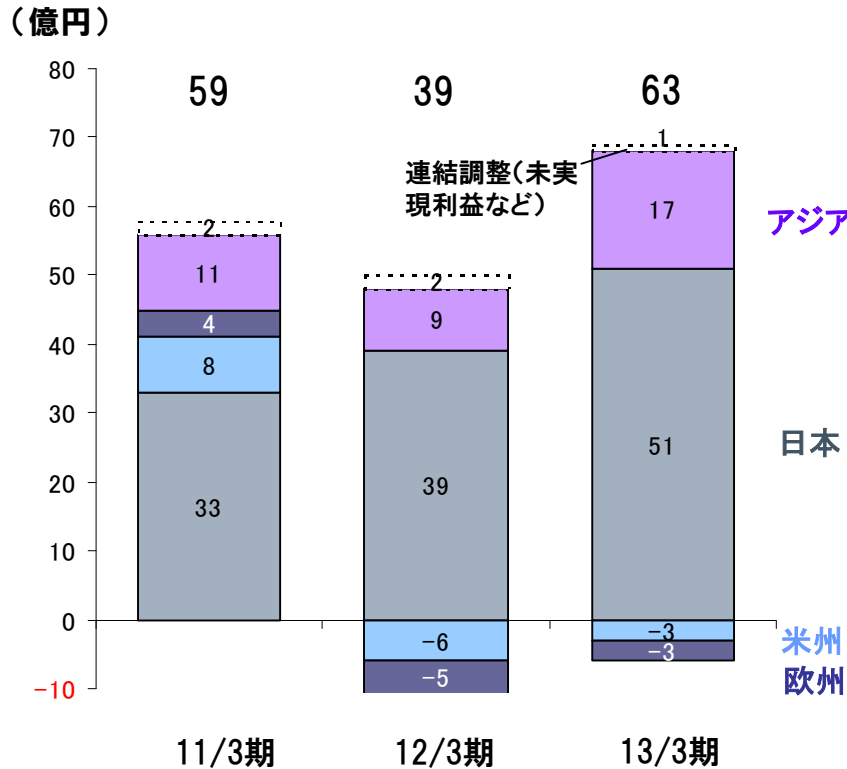
【欧州】:前期比 98.0%

- ・全般的には景気低迷の影響残るが、為替要因▲12億円を除き、フレーバー、フレグランスとも増収。
- ・フレーバーでは新規取引が伸び、東欧・中東アフリカのエリアも伸長。
- ・ファインフレグランスでも一部好調。

【アジア】:前期比 117.5%(為替要因 +1億円)

- ・東南アジア市場は、飲料、ハウスホールド向け等で、引き続き2桁以上の伸長率。地域ではインドネシア・タイ・ベトナム向けが順調に推移。
- ・中国市場は経済失速の影響もあり、一部大手顧客向けが伸び悩んだものの、10%近い成長率を維持。

地域別営業利益



【日本】:前期比 +12億円(129.2%)
(増益要因)

- ・販管費は若干増加したが、粗利率が向上。
- ・飲料向けフレーバーなどで独自の付加価値製品の増加が寄与。
- ・メントールの増収効果による増益。

【米州】:前期比 +3億円
(増益要因)

- ・ブラジル拠点の稼動向上による収益改善が寄与。
- ・北米はグローバル経費の増加で微増益。

【欧州】:前期比 +2億円

- ・フレグランスは依然、需要不足、原料高で厳しい収益環境。
- ・フレーバーは増収効果に対して、原料費高騰、人員及びシステム投資費用が増加。

【アジア】:前期比 +7億円(182.6%)

「東南アジア」

- ・全般的に増収効果。
- ・(減益要因)一部食品素材事業での設備調整の影響による収益率低下。

「中国」

- ・フレーバー、フレグランスともに増収効果。
- ・人員増加やグローバル費用負担により微増益。

キャッシュ・フローの状況

単位:億円	12/3 実績	13/3 実績
I.内部留保	59	92
税引後利益	18	47
社外流出(利益処分)	▲8	▲9
減価償却費	49	54
II.設備投資等	▲40	▲54
III.運転資金増減 その他	1	▲41
フリーキャッシュ・フロー(I + II + III)	20	▲2
IV.財務キャッシュ・フロー	▲29	23
有利子負債の増減	▲25	23
自己株式の取得	▲4	0
キャッシュ・フロー計 (I + II + III + IV)	▲9	21
V.現金同等物の期末残高	112	133

【13/3 実績の補足】

※減価償却費に減損損失8億円含む

※設備投資増加 東南アジア拡張投資

※たな卸資産の増加

※増加運転資金及び設備投資により
有利子負債増加

2. 2014年3月期の見通し

2014年3月期 連結業績予想

単位:百万円	2013/3 実績	2014/3 予想	対前期比	
			金額	%
売上高	118,973	121,000	2,027	101.7%
営業利益	6,285	2,800	▲3,485	44.6%
経常利益	7,475	3,100	▲4,375	41.5%
当期純利益	4,673	1,800	▲2,873	38.5%

業績予測の前提

■平塚工場火災に係る影響を一定の前提条件や入手可能な情報に基づき予想。

■海外事業は特にアジアでの堅調な推移を予想。

■為替はドル、ユーロとも円安のプラス効果。

単位:億円	2014年3月期通期連結業績への影響額の見通し	
営業利益	▲45億円	生産・販売の減少及び代替品の調達による損失等
特別損益	▲15億円	固定資産・棚卸資産の廃棄損失、及び保険収入等
合計	▲60億円	

3. 今後の国内フレーバー生産体制について

今後の国内フレーバー生産体制について

■生産能力回復に向けた取り組み

①現状(短期的な供給体制)

②下期以降の生産能力の回復

■来年以降の生産体制の構築

今後の国内フレーバー生産体制について

■生産能力回復に向けた取り組み

①現状(短期的な供給体制)

- ・当社鹿島工場、磐田工場、高砂フードプロダクツ(株)にて、製造移管を実施。
- ・他社への委託製造を実施。

②下期以降の生産能力の回復

- ・移管先工場の生産能力向上のための投資と体制構築を進めている。下期以降に火災前の生産能力を回復できるよう取り組み中。

今後の国内フレーバー生産体制について

■ 来年以降の生産体制の構築

◆ 安全性と効率化を追求し、BCP体制構築を目指す。

- ・ 早期に安定的な供給体制を構築すべく、新工場建設も検討中。
- ・ 現時点では2015年の早い時期での稼働を目標に計画中。

4. 事業施策の進捗報告

主な海外投資案件の進捗状況

	投資額	2013年	2014年	2015年以降
北米フレグランス 生産体制の強化	約27億円		2014年 予定	
東南アジア拡張投資	約42億円	2013年 予定		
インド新拠点設立	約14億円			2015予定
インド仮工場建設	約1億円	2013年より稼働		
高砂モロッコ 高砂マダガスカル	約1.7億円	2013年 予定		

天然志向

特に欧州を中心に天然志向が高まり、消費者に定着しつつある。他国への広がりが考えられ、今後、天然素材の確保、開発は重要な戦略。

- **天然素材の有効活用**(フレーバー及びフレグランス)
 - シトラス・コーヒー・茶系・ミント・バニラ
 - 将来:スパイス・ハーブ・乳素材
 - 天然素材のフレグランス香料への応用
- **分画技術・生化学(発酵)の活用**
 - フラクション・蒸留・発酵等の利用
- **各地域の嗜好の把握**
 - CIMRとの連携(天然志向・健康との連動性の確認)
 - Global Study－紅茶・シトラス
- **食生活の改善・変化への対応**
 - 塩・砂糖・脂肪の削減→フレーバーによるおいしさの向上

天然素材



シトラス - フロリダ USA



コーヒー - マレーシア, ブラジル, 日本



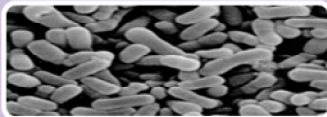
茶系 - 中国, 日本



フルーツアロマ - ドイツ



バニラ - マダガスカル



発酵素材 - 日本



天然抽出物 - インドネシア・モロッコ

マダガスカルにバニラの生産拠点を設立

◆2012年11月「高砂モロッコ」設立： 天然原料の抽出・加工工場

◆2013年5月「高砂マダガスカル」設立予定：

※ラマナンドライブ社との共同出資(高砂55%)

※マダガスカルで抽出したバニラエキスをモロッコで加工し、各拠点に輸出。

世界有数のバニラ生産国であるマダガスカルをベースに、高品質で価格競争力のある独自のバニラフレーバーを安定供給する。

新ブランド「LA VANILLE T」



【参考】

◆世界のバニラ豆生産量：

7,508MT (マダガスカル：約1,587MT)

FAOSTAT 2011データより

◆バニラ香料の用途：菓子、冷菓、乳製品など





本日は、ありがとうございました。

※注意事項

本資料は、2013年05月20日現在の当社グループの事業内容、経営戦略、業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

本資料に記載した意見や予測等は資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

問合せ先： 取締役 企画開発本部長 松本 裕幸

TEL： 03-5744-0523 FAX： 03-3730-6678

<http://www.takasago.com>

E-mail: ir@takasago.com